

身体事例 1 まとめ

1 アパート探し

この計画には大まかなものしか記載されていないが、車椅子の方がアパートでの生活をするためにはいろいろな条件が必要となってくる。それらの条件について相談支援専門員だけで対応することは困難であり、入所施設のサービス管理責任者と連携をとりながらの支援することが必要。

2 アパートの改造

佐藤様は両足欠損のためにアパートの中でもいろいろな不自由がある。たとえばトイレ。足が使えれば洋式トイレに手すりを取り付ければ何とかなる場合もあるが、佐藤様の場合には車いすと便座の間に移動できる台が必要であり、浴槽も様々な工夫が必要である。これらもアパートの管理者などと相談し、市町村の住宅改造の助成制度を活用しなければならない。

3 日中活動の場

本人の気持ちとして、生活の場が施設であると窮屈であるが、アパートを中心に考えると日中の余暇活動の場は普通の事業所でもよいとのことであった。話し相手になってくれる同じような障害を持つ方がいるだけでも、充実した生活につながる。また、在宅においては多少の家事支援を活用しながら生活を組み立てていく。

日中活動の場や生活環境を整えていくことで、その後に就職等の意欲が出てくるのではないかと思われる。

4 経緯

地域移行支援として、佐藤様が退所後に暮らすアパート探しを行った。なかなか良い物件が見つからなかったが、5月末になんとか探し当て、管理者と相談しながら対応をしていった。6月には試験的にアパートを利用し、本人と相談しながら改造をしていった。6月にはアパートの管理者、住宅改修の担当者、市の福祉担当者、退所後に利用する地域活動支援センターの職員、施設のサービス管理責任者が集まり、数回に及ぶ担当者会議を開催し、いろいろな意見を出していった。佐藤様が障害者支援施設を退所したのは8月になってからである。